【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立中川副小学校

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である

1　前年度 評価結果の概要	・「書く活動」「話し合う活動」を軸とした授業改善を行い、思考力・判断力は向上しているが、学習意欲向上を含め、更なる学力向上を目指していきたい。 ・志を高める教育では、中川副町が「博愛の里」であることを誇りに思い、志高く夢を語れる児童を育てていくために、児童自身が自ら考え、表現できる学習の場を設定していきたい。 ・ボランティア活動や地域との交流活動については、規模を縮小しながらも計画的に行うことができた。今後も一つ一つの活動に主体性をもって取り組むことができる児童の育成を目指していきたい。 ・働き方改革については、「改革の意識化と視覚化」について研修会をもち、再度、全職員で共通理解を図りたい。
2　学校教育目標	気づき、考え、実行する子どもの育成 ～博愛の里 伸びゆくわれら 中小っ子～
3　本年度の重点目標	＊子ども一人一人が、自分の力を発揮し輝くことができる学校づくり ・安心安全な生活ができる学校 ・学力を伸ばすことができる学校 ・子どもの活躍の場がある学校 ・教師が生き生きと、やる気に満ちた学校

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○（学校独自重点取組・任意） 他者と協働しながら主体的に学び続ける児童を育成するための授業実践 ○全職員による共通理解と共通実践	○「めざす児童像」（話す、聞く）の到達度80%以上。 ○学力学習状況調査で県平均以上。	・「めざす児童像」（話す、聞く）を用いた評価規準を設定し，指導と評価の一体化を図る。また，全職員による研究授業等を通して，授業力の向上を図る。	B	・めざす児童像の達成率は話す42%，聞く55%であった。偶数学年末に達成できるように引き続き指導していく。 ・4月に行われた学力調査の結果は県平均点に届かない教科が多かった。授業改善を継続し，学力向上を図る。	B	・めざす児童像の達成率は話す73%，聞く80%であった。定期的に振り返りを行い，授業改善につなげたことで向上が見られた。 ・児童への算数アンケートの結果もほとんどの学年で向上が見られ，目指す児童像に近づいている。	A	・学力の二極化、固定化が進む中で、主体的で深い学びへといざなう手段として、対話活動や振り返りを重視して個々の意欲を高める工夫がなされている。継続は力で、引き続き学力の向上に向けて取り組み、是非「学調県平均以上」の目標を達成してほしい。	☆学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○ボランティア活動を通して「気づき・考え・実行する」という学校目標を行動化させ、「できた」といえる児童を80%以上	・毎学期VS週間を実施し、美化活動、ごみ拾い、花壇の花の管理を日常化させる。 ・地域との関わりや学級の取組を通して、地域、学校、学級のために役に立っているという自己肯定感を高めていく。	A	・5月19日、11月10日に全校で縦割り花壇の花植えを実施した。毎週担当学年で草取りや水やりなどのお世話をしている。 ・9月28日には、博愛の里子ども園の年長さんを迎え、校区内のごみ拾いボランティアを実施した。	A	・2月5日～9日までは、VS週間として、全学年で朝の時間にボランティア(草むしり・玄関掃除など)を行う予定。 ・縦割り花壇は、毎週担当学年で水やりなどのお世話を継続して取り組むことができた。	A	・計画的にVS週間の取り組みがなされていることで、児童にはボランティ精神が年々根付いていると思う。日常生活の中で友達と協力し合う活動から思いやりのある行動へとつながっていると思う。縦割り班の花壇はお世話がよくできているのでがきれいな花が咲き誇っている。	☆ボランティア担当 ・道徳教育推進教師 ・人権･同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○月初めの「いじめ・いのちを考える」アンケートの活用と学期ごとの教育相談週間を通しての実態把握ができていると回答した教員80%以上	・月初めの「いじめ・いのちを考える」アンケートの活用と学期ごとの教育相談週間を通しての実態把握。	A	・月初めの「いじめ・命を考える」アンケートの活用や月1の生徒指導会議を通して、児童の実態把握ができた。気になる児童に対しては、管理職へ相談をし、早期対応することができた。	A	・心のアンケートや生徒支援会議を通して、十分な児童の実態把握ができ、気になる児童に対しては管理職に相談し早期に対応できた。年間で大きなトラブルもなく全体として落ち着いて過ごすことができた。	A	・早期発見・早期対応に努め、職員間で情報共有を行い、管理職を含めた「チーム」で関わっている。 ・先生方の気配りのある指導のおかげで気になる児童への早期発見、早期対応ができていると思う。児童は安心して学校生活を送ることができると思う。	☆人権･同和教育担当 ・教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・QUアンケートや児童アンケートを実施し、自己肯定感や学級所属感を高められているかの実態把握。	A	・ほめほめプロジェクトを実施して、子どもたちの自己肯定感を高めることができた。毎月実施している集会を通して、学校目標である気づき、考え、実行することの確認し、常に目標を持つことの大切さを確認している。	A	・QUアンケートや学級アンケートを実施することでクラスの実態を把握することができ、日々の実践に生かすことができた。自己肯定感や学級所属感を高めることができたので、学校の目標やクラスのめあてにむかって活動する姿が多く見られた。ほめほめプロジェクトを実施することで、自分から元気にあいさつができる児童が増えた。	A	・データを活用することで、日々の児童理解に生かしている。また、児童一人一人の自己肯定感を醸成し、目標に向かってベクトルを揃え、向上させている。 ・日々の一人一人の児童へ温かいまなざしが先生たちからなされていることで児童は安心して学校生活ができていると思う。児童の朝のあいさつ、道で出会ったときのあいさつなど、気持ちの良い元気なあいさつができている。横断歩道での会釈もよくできている。	☆教務 ・生活・総合担当 ・キャリア教育担当 ・ボランティア担当
	○（学校独自重点取組・任意） ◎「博愛の里子どもづくり」の推進	○佐野常民生誕の地に生まれ育ったことを誇りに思う児童を90%以上にし、夢をもって自分を語れる児童を80%以上	・下学年については、佐野祭への参加や取組、上学年においては、社会科や総合的な学習で佐野常民の偉業を知り、自分の生活に生かしていく。	A	「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は、83%。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は、90%で、9月実施アンケートと比べて、7%上昇した。	A	・評価基準が児童のアンケート回答のみなので、将来の夢や目標を持たせるための手立てや過程、表出した姿が分かるような資料を示してほしいと感じた。 ・佐野常民についての学習が組まれているので、郷土への思いが育まれていると思う。児童が自分の夢に向かって失敗を恐れずチャレンジできるよう地域でも支援をしていきたい。	☆人権･同和教育担当 ・ボランティア担当 ・道徳教育推進教師
●健康・体つくり	次の中から1つ以上を選択 ❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」 ❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ❹「安全に関する資質・能力の育成」	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ❷「家庭学習頑張ろう週間」で各学年の目標就寝時間を7日間達成できた児童を70%以上 ❸「健康に食事は大切である」と考える児童80%以上	①なわとび大会や中っ子オリンピックを計画・運営することにより、児童の意欲を高める。 ②保健・家庭科・特活の時間等を活用し、十分な睡眠・早起きが生活リズムをつくり、健康にいいことを理解させる。 ③給食指導の時間帯に、偏りのない食事が体に良いことを理解させる。	B	❶授業以外の運動時間が1週間420分以上の児童が37%以上であった。今夏は暑さのため屋外活動を推奨してこなかったことも影響していると思われる。 ❷1学期の「家庭学習頑張ろう週間」で各学年の目標就寝時間を7日間達成できた児童は41.3%。「早寝早起きをしているか」の項目で、している・だいたいしている人は80%。保健通信で状況を伝え、就寝時間・睡眠時間を意識して生活できるようにする。 ❸「食事・健康に関する調査」(5年生対象)で「健康に食事は大切である・やや大切である」と回答した児童は100%であった。	B	❷2学期の「家庭学習頑張ろう週間」で各学年の目標就寝時間を7日間達成できた児童は　%。1月実施の学校アンケート「早寝早起きをしているか」の項目で、している・だいたいしている人は75%と9月に比べて生活リズムが乱れている児童が増えている。今後も掲示物や保健便り・保健通信等を活用し、就寝時間・睡眠時間を意識して生活できるよう取り組んでいきたい。	B	・外遊びを楽しんでいるのが本校のいいところであると思う。遊びを通して友達とのふれあいを大切にしてほしいと思う。 ・社会現象の一つとして携帯の使い方が問題となっているが、学校と家庭が連携し合って、正しい使い方ができるような取り組みを今後も実施してほしいと思う。 ・デジタルの進化とともに子供たちを取り巻く生活自体が大きく変化している。ゲームやSNS、YouTube等、①②③のどれにも影響を与えているのではと考えられる。タブレットを持ち帰るこの機に、保護者を巻き込んで啓発していく必要性を感じる。	☆体育主任 ・食育教育担当 ・安全教育担当 ・保健指導担当 ・各学年
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日にリフレッシュデー（定時退勤日）を設定する。 ・退勤時刻自己申請表を活用する。 ・管理職も施錠担当日を決めて定時退勤日を設定し、やる気をもって生き生きと日々業務にあたる。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均27.3時間 ・退勤時刻自己申請表を活用し、時間外勤務時間を意識した働き方ができている。	A	・1月までの時間外勤務時間は、平均27.0時間 ・管理職も施錠担当日を決めて定時退勤日を設定し、日々疲れを解消しながら、日々業務にあたることができている。	A	・学校が年々多忙化しているので、先生方には健康第一に業務に励んでほしいと思う。 ・他からの強制ではなく、自ら「効率良く働くこと」「そう意識すること」の大切さを痛感します。伝授し合ってより良い働き方の技を磨いてください。	管理職
	○（学校独自重点取組・任意） 各自の業務精選とタイムマネジメント力の向上	○業務改善が進んだと回答した教師80%以上	・「働き方改革一人一提案」を募り、それを基に業務改善を図る。	A	・年度当初に学校目標に準じた「働き方改革」についての意義と呼び掛けを行い、改めて仕事の優先順位をつけ、効率的な働き方になるよう全職員で共通理解を図ったことで、多くの職員が6時台には帰宅できるようになっている。	A	・今年から勤務時間より、在校時間の縮減に変わったことを意識したメリハリのある働き方ができるようになっている。	A	・ワークライフバランスで心身ともに良好な状況で児童の指導に当たってください。	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携	○（学校独自重点取組・任意） 地域交流ボランティアやPTAとの協働活動を通して、地域に開かれた学校を目指す。	○（学校独自成果指標・任意） 地域連携ができているという回答を、教師と学校評議員80パーセント以上	・佐野常民と三重津海軍所跡記念館との協力事業や、読み語りボランティア、地域交流ボランティアを一層推進する。	A	・佐野常民と三重津海軍所跡記念館との協力事業や読み語りボランティアでは、昨年以上に成果が感じられた。ふるさと交流ボランティアについては、場所の変更や地域への呼びかけ等を今後考えていく必要がある。	A	・三重津カルタ大会やボランティアガイド、一人暮らし老人へのプレゼント、登校、下校時の見守りやあいさつ運動、家庭科での針の使い方など、子どもたちの育ちのお手伝いや安全安心への配慮に至るまで、気を配っていただきたくさんの交流があった。	A	・三重津カルタ大会の微笑ましい様子をテレビのニュースで拝見しました。「地域との交流」もさることながら、読み札の内容がまさに「誇れる地域学習」に繋がっていると思います。 ・今年度は以前のように学校とのふれあい交流が増えてきたのはうれしいことである。更に地域と学校とのつながりが深められるように詳細に事前打ち合わせをして楽しい活動となるようにしていきたいと思う。学校から公民館内に掲示物をしてくださることで地域の方の関心度が高まっている。	☆PTA担当

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・校内研究では、算数科を中心に「書く活動」「話し合う活動」を軸とした授業改善に努めることができた。学年によって学力差があることが見えるので、来年度は更に校内研究を充実させ、授業中一人一台端末を積極的に利用し、児童が「主体的・対話的」に取り組める授業改善を行いながら、学力向上を目指したい。 ・志を高める教育では、外部から講師招聘を行うなどし、コロナ禍でここ数年できなかった体験活動やコンサート活動等を積極的に企画・立案し、豊かな体験をさせることができた。 ・博愛の里ならではの交流活動やボランティアガイド、VS活動（ボランタリーサービス）を通して、博愛の精神を学ぶことができた。今後とも、地域と一緒に、一層の継続を図っていきたい。 ・学校は楽しいと感じる児童の割合が高くなったが、勉強はあまり楽しくないと感じる児童の割合も若干増加していることから、何が原因かを究明し、勉強が分かり、進んで勉強できる児童の割合を増やす必要がある。 ・働き方改革については、全職員が時間を意識して働くことができた。次年度も、研修会や情報交換会など行い、職員一人一人の意識をさらに高めていきたい。